

## 画像診断のはなし



# 放射線科看護師の役割



看護部 主任看護師  
眞野孝二

「画像診断のはなし」ですが今回は、放射線科で働く看護師の役割を紹介させていただきます。

### 放射線科看護師の役割

現在、放射線科には2名の看護師（女性1名・男性1名）が配置されています。放射線科での看護師の役割は、主に以下のようなことがあります。

- ・カテーテル検査中、前後での看護
- ・MRI・CT検査、放射線治療を受けられる方の看護
- ・外来検査での患者さんの急変対応 など



カテーテル検査装置

### カテーテル室では

医師を中心として、看護師、放射線技師、臨床工学技士がチームとなり患者さんの治療に関わります。当院のカテーテル検査は頭部、心臓、腹部が中心です。私たち看護師は、検査前後で心電図・血圧・SpO2（動脈血酸素飽和度）といったバイタルサインを測定します。検査中は、異常の早期発見が私たちの大切な役割のひとつになります。「胸が痛い、吐き気がする。」など検査中に訴える患者さんの元にいち早く駆けつけ、状態の確認・観察・バイタルサインの測定をして医師に伝えます。さらには、不安が強い患者さんに対しては、安心して検査が受けられるよう説明や声掛けを多くするなど、精神面のケアも欠かせません。異常の早期発見や精神面のケアは、看護の知識と経験が必要です。安心・安全に検査を受けてもらえるよう、私たちは日々勉強しております。

### カテーテル検査前病室訪問を行っています

今年6月から新たな取り組みとして、「カテーテル検査前病室訪問」を始めました。

#### カテーテル検査前病室訪問の流れ

前日または検査前に病室へ訪問



病室でご挨拶・検査の説明・質疑応答



検査当日

### 患者さんの声

病室訪問時に患者さんより「腰が痛くならないか、心配している。」と言われました。そこで、カテーテル検査前に病棟の看護師と相談し、検査後痛みが出たらどうするのか事前に看護計画を立てておきました。検査後、「痛み止めをすぐに使ってもらえて楽だったよ。」というお言葉をいただきました。訪問で得られた情報を共有することで患者さんの安楽につながりました。

またある患者さんからは、「看護師さんの声が聞けて安心した。」と言ってもらえ、検査前に病室訪問することによってコミュニケーションが円滑となり、患者さんごとに安心な看護が提供できていると実感することができました。今後は希望される方には、事前に検査室の見学・説明も行っていく予定です。今よりも内容の充実した「カテーテル検査前病室訪問」を実施できるように日々精進していきます。